書　評

㈱岩波書店発行　　森　俊介　著

地球環境と資源問題

評者　斎　藤　雄　志*
Takeshi Saito

地球環境・資源問題の重要性はほとんどの人々が認め，この問題に関する一般社会の関心は強く，近年さまざまな出版物が発行されているが，日本人によって書かれたこの分野の著作で，単なる解説でなく分りやすい専門的情報を提供する著書は必ずしも多くない．その一つの理由は地球環境・資源問題のような多分野にまたがる複合問題を総合的に分析できる研究者が我が国にはあまり多くないということがあるのかもしれない．

著者は，東京理科大学理工学部経営工学科助教授でありシステム工学の見方から地球環境・資源問題に取り組む新進気鋭の研究者として知られている．地球環境・資源問題のような工学，経済学を含む学際的問題には複数の分野を統合するシステム工学のような総合的アプローチが不可欠である．本書はそれらの問題を分析するための経済学的視点とシステム工学的方法の提供に力点がおかれている．

評者も，21世紀になると地球環境・資源問題は今よりもずっと重要な問題としてクローズアップして来るものと予想しているが，社会がこれらの問題を考えるための適切な著作が不足している．このような問題は著者自身が述べているように専門家だけの問題ではない．社会全体が考えねばならない時期に来ている．しかしこの問題は，経済，政治，技術，法制度の諸分野にまたがり，空間的時間的広がりの大きい問題であって，一般の人々にとっては大変捉らえにくく，また偏った捉らえ方をしやすい分野である．われわれは総合的視点を学ぶ必要がある．本書はそのための貴重な1冊である．幸い，本書は難解な本ではなく地球環境・資源問題に関する豊富な解説を含む大変分りやすい内容となっているので広範な学生，社会人におおいに役だつであろう．

本書はつぎのような構成になっている．

第1章　はじめに－問題の背景
第2章　地球環境と資源問題
第3章　地球環境と資源問題への経済学的接近
第4章　地球環境問題へのモデルアプローチ
第5章　技術の可能性－なにができるか
第6章　地球環境と資源問題の今後

著者が，第1章で「問題の背景」として述べている点は，地球環境問題・資源問題の多面性と問題の難しさである．たとえば環境問題は経済成長そのものに関係しているというような点である．しかし容易に結論が出ないようなこの種の問題に対して「わからない間はなにも行動しない」とする従来の考えは，もやは限界に来ているというのが著者の考えである．たしかに対象とする問題がローカルで小さな問題であった時代はそのような態度でも社会は全体として回復可能であったかもしれないが，地球環境・資源問題ではわれわれの考え方を変えなければならない．

第2章は，水，食料，森林，エネルギー等の資源の賦存・消費，および酸性雨，オゾン層破壊，地球温暖化などの環境問題の分りやすい解説となっている．地球環境・資源問題は長期的な経済の問題でもある．第3章は，市場における効率的資源配分，外部経済と公共財，有限資源の需給と資源価格，課税等による地球環境問題への対策等の説明がなされている．第4章は，長期的な地球環境・資源問題を不確実性下の意志決定問題として検討する有力な道具としてのモデル分析の得失を述べている．この分野に関して著者は豊富な経験を持っている．

さらに本書では，上記のような問題に技術がどのような可能性を持っているかについても論じている．著者は悲観的考えから技術開発を怠ることは，過度の楽観以上に危険であると述べているが，長期的な技術開発とその位置づけの上で最も重要な態度であろう．本書は第13回エネルギーフォーラム賞優秀作を授賞している．

なお本書は全12巻の岩波書店「シリーズ現代の経済」のなかの1冊であるが，本書で触れている技術の可能性については同シリーズのなかの「先端技術と経済」（藤井美文・菊池純一著）が大変に参考になる．

* 専修大学経営学部教授
〒214川崎市多摩区東三田2－1－1